

つなぐ

ふるさと宇和島／南予

春号

2025 No.30

ご自由にお取りください



特集

三輪 田俊助

● インタビュー「記憶の奥に漂う抒情」 画 家 森本 秀樹

おかげさまで

30号

C o n t e n t s

01 おかげさまで 30 号

04 エッセイ 「俳句と音楽の界限にて」 ローゼン 千津

05 撮り歩きなんよ 「辰野川の桜は、おらが桜」 写真家 北濱 一男

06 インタビュー 画家 森本 秀樹 「記憶の奥に漂う抒情」

09 特 集 三輪田 俊助

10 三輪田俊助とは、 清家 克久

12 父のこと 河野たか

13 私の出発点 薬師神 親彦

14 「風景」との再会 森本 秀樹

15 三輪田俊助の足あと

16 ギャラリーの公開準備すすむ



20 文ちゃんとはとつぽの
予士線のあの人に会いたい 11 映画監督 大森研一

22 いのちのはなし
グーチョコキパー 11 「子ども教室で郷土料理に 戦っています！」 毛利 弘子

23 卯之刻相撲（宇和島市吉田町） 愛媛大学地域協働推進機構 准教授 大本 敬久

24 医 療 「頭痛について」 沖内科クリニック 副院長 沖 良隆

25 食めぐり 美味しさを彩る「野菜とれていますか？」 管理栄養士 柑橋ソムリエ 和田 広美
シーフードマイスター

26 お気楽俳句 小野 更紗 / （絵）律川 エレキ / おすすめ本 岩崎書店

27 つなぐ美術館 ベにばら画廊／アトリエぱれっと

28 うわしん若手経営塾OB 若だんな 18 株式会社ロピン 代表取締役 小島大資

29 斗酒百篇 / 4コマ漫画「きさいやくん」



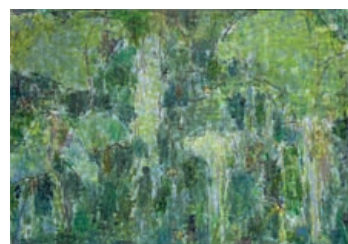
表紙 / 「こっちむいて」
作 / ありま三なこ

プロフィール

1987年生まれ 愛媛県宇和島市出身
子供の頃から絵を描くことが好きで、大学の卒業制作で、しかけ絵本を作り、それから絵本に興味を持つ。2016年第8回 be 絵本大賞受賞、絵本作家デビューを果たす
現在は個展やイベントへの出品等で活躍中



カタクリの花（撮影／北濱一男）



つなぐ春号 No.30

〒798-0041 宇和島市本町追手 2-4-10

0895-23-7000

年4回発行（季刊誌）

配布先 / 宇和島信用金庫各営業店ほか

発行 / 宇和島信用金庫

編集・構成 / 業務推進部 広報文化室 川尻純滋

本誌掲載内容の無断転載を禁じます

おかげさまで30号

2018年1月に創刊して以来、「つなぐ」も本号で30号を迎えることができました。
これもひとえに、ご愛読いただいた皆様のおかげです。これからも宇和島信用金庫ともども末永くご愛顧頂きますようお願い申し上げます。





ありま三なこ

arima minako

絵本作家・イラストレーター

(表紙)

この度、「情報誌つなぐ」創刊 30 号を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

2018 年の刊行から共に歩ませていただき早 7 年。いつも宇和島の皆さまが笑顔で手に取る姿を想像しながら制作しています。バックナンバーを見返すと私自身の成長も感じられとても感慨深い気持ちになりました。「つなぐ」から溢れ出る宇和島パワーに「私も頑張ろう」と刺激を受けています。今後もより多くの方の目に留まる表紙になるよう尽力いたします。さらなる発展を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。



宇神 雪斎

ugami sessai

作家・音楽評論家

(エッセイ)

大宅壮一は『僕の日本拝見』（昭和 32 年 中央公論社）で、宇和島を「日本の終着駅」と紹介し、一躍、宇和島を有名にしたが、大宅は宇和島に新聞が多いことに驚いている。昭和戦後、宇和島には新聞が 30 紙ほどもあったという。もともと、そのほとんどは、いわゆるごろつき新聞で、低俗で煽情的なゴシップ記事満載、ゆすりたかりを目的としているものもあった。以上は昔話である。しかし、宇和島人の噂好き、知的好奇心は今もって脈々と続いている。そういった土壌に貴重な大輪の花を咲かせている情報誌が、ほかならぬ「つなぐ」である。「つなぐ」の益々の隆盛を願ってやまないゆえんである。



大本 敬久

ōmoto takahisa

愛媛大学地域協働センター南予
副センター長

(南予の祭歳時記)

『つなぐ』創刊 30 号、おめでとうございます。北濱一男氏の写真で祭りを紹介する「南予の祭り歳時記」。観光化された祭りよりも地域で継承される小さな祭りに注目しながら連載しています。人口減少が進む南予で伝統行事をいかに持続していくのか。その継承に向けては様々な立場の人びとが価値を認識した上で、主体的に活動していくことが必要になります。これは『つなぐ』にも共通します。世代、地域の内外、そして思いや心を「つなぐ」ことで南予の未来を構築していく。そういった結節点となることを今後も期待しています。



沖 良隆

oki yoshitaka

沖内科クリニック
副院長

(医療)

宇和島はいい街です。でも人口が減ってきています。高齢化率は増加し、医療の担い手は少なくなり、どの医療機関も人手不足です。救急の現場は疲弊しつつあります。宇和島では過去 10 年で 14 の診療所が閉院しましたが、新規開業はわずか 3 件です。厳しくなる医療や介護の状況で限られた医療資源や人材を有効に活用するには地域の助け合いが必要です。しかし、知らない者同士では連携は生まれません。宇和島という地方都市を再発見し、助け合って生きていくための貴重な情報を「つなぐ」は教えてくれます。創刊 30 号、おめでとうございます。



小野 さとみ

ono satomi

(お気楽俳句)

『つなぐ』創刊 30 号、おめでとうございます。

とても手厳しい編集者時代の先輩たちに見せたところ、よく出来てるねとの賛辞。「お気楽俳句」で句を掲載した俳人たちにも好評です。「お気楽俳句」も連載 7 年。その間に残念なことと言えば、宇和島東高校の俳句部が廃止され、俳句甲子園出場が途絶えたこと。二度も個人最優秀賞をとっているのに & 夏井いつき組長の母校なのに。俳句は面白くていろんな知識が深まるし、全国に友達も出来ます。ぜひまたチャレンジして欲しい！伊達博とコラボして大竹伸朗美術館を造れば良かったのにとこれまた残念。



北濱 一男

kitahama kazuo

(撮り歩きなんよ)

思えば川尻さんとの出会いは、友人の紹介からでした。ある日、川尻さんが自宅に來られて「つなぐ」という季刊誌に撮影した写真を載せて「撮り歩きなんよ」をやりませんか？ とのお話だったように思います。写真だけのつもりでお引き受けしたのに「簡単でいいから文章も書いてください」と言われ 29 回も書いていたということに自分自身が驚きました。微力ではありますがこれからも協力してゆきたいと思っています。今後も「つなぐ」が地域に根ざした季刊誌となり更なるご発展をとげられることをお祈り申し上げます。



城内 章

shirouchi akira

絵本作家

(4 コマ漫画)

創刊 30 号おめでとうございます。

宇和島の歴史や文化、そして、それらを彩る人々やエピソードはとても面白く、「宇和島って歴史と文化の宝箱やな」と思っていました。宇和島信用金庫さんに漫画のお話をいただいた時、それを漫画という形で面白く発信できたらと思い描かせていただくことにしました。描くほどに新しい発見があります。交通の便も良くなった今、この歴史と文化という宝物をうんと観光に活かせる一助になればと、「きさいやくん」と「いっぺんにゃん」に頑張ってもらっています。「いっぺんきさいやおいでなせ♪」子どもの時から大好きな歌です。



清家 由佳

seike yuka

アトリエばれっとガロ 代表

(つなぐ美術館)

創刊 30 号おめでとうございます。
いつも、うちの生徒さん達に「つなぐ」をお配りすると、「待ってましたー♪」と 1 ページ 1 ページ、大切に開いて作品制作そっちのけで夢中になって読まれ、「これだけの情報誌は他にはないね」と話題になります。「つなぐ」は地元根ざした信金さんの大切な地域貢献のカタチだと改めて感じます。そして、今や地元では、知らない人はいないほど愛される情報誌となっています。「つなぐ美術館」でご縁を頂いて 7 年。絵を描く方々の励みとなり、支えていただき本当にありがとうございます。これからも、「つなぐ」の広がりがとても楽しみです。



毛利 弘子

mori hiroko

元教員

(ゲーチョコキパー)

「楽しみにまっとたんよ！」
「つなぐ」をお渡しした時に、愛読してくださっている方々からかけてもらう嬉しい言葉です。「知っている人や地域の事が出たり、写真もきれいやし、読みやすいね」、「都会に住む娘に送り、それを話題に長電話するのが、楽しみなんよ、何よりのふるさと便ですよ」等々、沢山の感想が届き、愛読者が口コミで確実に増えている実感を感じています。
2022 年 (No.19) から連載させてもらっている私自身も、ふるさと宇和島の素晴らしさを再確認させてもらえる機会になっています。人気の秘密は、編集を担当されている川尻さんの誠実で温かいお人柄が文面から伝わってくるものだと思っています。



山下 文子

yamashita ayako

予土線利用促進対策協議会
HP コラム担当

(予土線のあの人に会いたい)

「つなぐ」創刊 30 号おめでとうございます！
「つなぐ」は、A4 サイズ、およそ 30 ページ。旅のおともにぴったりの軽量なサイズ感でありながら、ページをめくるとその情報量にびっくり仰天する濃厚な冊子。川尻編集長のたぎる地元愛と豊かな人脈や感性により、年に 4 回発刊されていますが、こんなに深く地元を掘り下げている冊子はないのではなかろうか。えんまさま、闘牛、やまこのうどん、、、私が好きな宇和島のことはたいがい「つなぐ」で特集されてきましたが、いやはや毎号開くたびに未知の情報があふれているのです。その情熱を見習って、私も引き続き予土線でつながる人々の記事を「つなぐ」に書き続けていく所存であります。



吉田桃子

yoshida momoko

べにばら画廊

(つなぐ美術館)

「あの宇和島の冊子！なんやったかね・・・“つなぐ”よ！置いてあるんやろ？」「3 冊やんさいや！面白いけん配るんよ」「次はいつ出るんかね？」「バックナンバーもある？」当店には“つなぐ”を楽しみに定期的に尋ねて来られる方がいらっしゃいます。歴史、文化、そして、今、宇和島を生きる“人”にも重きを置いて、時と人の繋がりを大切に取材し続ける川尻さん。よくある情報誌とは本質的に異なる、次号を待たれ、読んで欲しいと誰かに紹介したくなる季刊誌。創刊 30 号おめでとうございます。今後も長く続いていくことを願っています。



律川 エレキ

ritsukawa ereki

映像作家

(お気楽俳句)

創刊 30 号おめでとうございます。
「つなぐ」の仲間に入れていただき大変嬉しく、そして毎回楽しく描かせていただいています。
昨年、伊吹八幡神社秋祭りの日、柿原地区の小学生女兒たちの「雪輪獅子」を撮影する機会がありました。赤白青の衣装、獅子頭を右手に太鼓と歌に合わせ、一軒一軒お宅の前で丁寧に踊っていきます。移動しながら最後の踊りまで 3 時間ほどかかりました。本番まで何度も練習されたそうですが、振付の指導は「雪輪獅子」経験者である地元の女子高校生。お祭りを通じ、若い女の子たちも伝統を継承。私自身これからも宇和島の「つなぐ」を発見していきたいと思っています。



和田 広美

wada hiromi

管理栄養士 / 柑橘ソムリエ
シーフードマイスターほか

(食)

情報誌つなぐ創刊 30 号にあたり、謹んでお祝いを申し上げます。数年前、街角で可愛いイラストが表紙を飾った「つなぐ」を見つけ、その充実した内容と宇和島愛にあふれた記事に惹かれ、毎回の発刊を心待ちにしていたことを思い出します。なかなか手に入らない時もあり、市内中を探し回ったこともありました。ひょんなご縁からご依頼を頂き大変恐縮した次第ですが、「長年栄養士として携わってきた『食』への思いを伝えられる機会を頂いた」と考え、現在「食めぐり」作成に奮闘しています。宇和島の歴史や文化、偉人、おいしいお店、健康情報など、生き生きとした写真と共に綴られた記事は、現在に至るまで常に進化されているように感じています。私もそれに相応しい内容が書けるよう、今後も精進していきたいと思っています。

国際的チェリストのナサニエル・ローゼンと結婚して、はや十五年目に突入しました。道後伊月庵の隣にチェロ教室の看板をかけ、俳句と音楽の種まき余生を楽しんでいます。

具体的には、「俳句の種まき」をライフワークとする姉夏井いつきの率いる「いつき組」に所属して句作に励み、夏井&カンパニーという会社では俳句書籍の製作などを担当しております。音楽の種まきの方は、コンサートの付き人兼マネージャー、ローゼンチェロクラスに来られる生徒さんのお世話や通訳などをやっています。

初めてニックのコンサートを聴いた時の「チェロとはこれほど雄弁に気持ちを語る楽器なのだ!」という感激を、一人でも多くの観客にお伝えしたい思いで一杯です。そう言えば、生まれて初めて俳句の句集を読んだ時も全く同じ感想でした。

「俳句とはこれほど雄弁に気持ちを語る文学なのだ!」と。

実際に、この看板を見てチェロクラスの扉を叩いて下さった方も結構おられます。突然、リコーダー奏者の方が、「私と一緒にバッハを演奏して下さい」と、訪ねて来られたこともあります。「初心者ですが、娘の弾くヴァイオリンと将来合奏したいのです」と、身一つでやって来られた生徒さんには、十年以上クラスで学んでいる先輩の生徒さんが、使っていない楽器を貸し出してくれました。数ヶ月

俳句と音楽の境界にて

ローゼン千津



のレッスンに手応えを感じたその生徒さんは、いよいよ自分のチェロを買う決心をなさいました。生涯チェロを趣味として、優しく、激しく、深い音色を友として生きてゆきたい、と思つて下さったのでしよう。

私自身は、子供の頃少々ピアノを習ったぐらい。弦楽器はまるで弾けなかったのですが、義父の形見のヴィオラが押入れの中で寂しげに蹲うつすまっているのを見るにつけ、いつかヴィオラの練習を始めようと考えていたのです。そして遂に、昨年から独学でヴィオラを弾き始めました。いまだに弓の往復と音階の練習ばかりですが、チェロとはまた違う（瞑想的とも聞える）ヴィオラの音に触れ、（会う機会の無かった）ニックの父との対話めく静かな時間を過ごしています。

春風やツアラトウストラかく語りき
ローゼン千津

最後にお知らせです。一昨年の秋に道後宝蔵寺たからぐらで開催されました「法話とチェロ演奏の夕べ」が好評につき、今年も行われる予定です。宝蔵寺オフィシャル・インスタグラム(hougonji-official)にて日程が発表されましたら、チェックの上、是非聴きにきて下さい。下記のデジタル朝日新聞にて前回の演奏の一部とインタビューをお聞き頂けます。俳句と音楽と一緒に楽しみましょう!

デジタル朝日新聞 <https://www.asahi.com/articles/ASRBL72SNRBBPTLC002.html>



ローゼン千津 ろうぜんちづ

(株)夏井&カンパニー所属ライター。いつき組俳人。チャイコフスキー国際コンクール金メダルチェリストの夫ナサニエル・ローゼンの通訳。
夏井いつきと共著『寝る前に読む一句、二句。クスリと笑える 17 音の物語』『食卓で読む一句、二句。お腹がぐう〜と鳴る 17 音の物語』(株)ワニブックス発行
『五七五と出会った子供たち』(株)春陽堂書店発行。



ミセス・ローゼンの上人坂日記
<https://blog.goo.ne.jp/msgecko>



ナサニエル・ローゼン公式ウェブサイト
<https://nathanielrosen.net/>



撮り歩きなんよ

北濱一男が撮りためた南予の風景



辰野川沿いの桜並木

辰野川の桜は、おらが桜

野川から寺町界隈を流れて宇和島湾内港に至る辰野川沿いに 17 本のソメイヨシノの桜が片側に植えられていて、春には川を埋め尽くすように咲く。樹齢は、おおよそ 70 年ほどだろうか？ というのも、この桜を植えたのは鶴島小学校の生徒で、同校に通っていた友人に聞くと 1956 年に 3 年生だった友人たちは下流に、西江寺に近い上流部は高学年が植えたそうだ。上流部の桜は残念ながら数本しか残っていないが、「おらが桜」と呼べる桜があるのは嬉しいことだろう。

私は宇和津小学校だったから愛宕山に植樹したように思うけど、確かな記憶がなく友人に聞くと 6 年生の時だったと覚えていた。ソメイヨシノは病害虫に弱く寿命が 70 年ほどだと聞いたことがあるが、弘前公園内には樹齢 100 年を超えるソメイヨシノが 30 0 本以上あるそうで、桜はバラ科でリンゴもバラ科で、リンゴと同じように管理したら見事な花を咲かせるようになったそうだ。



愛宕山から見る桜と夕景



北濱 一男 写真家

1945 年生まれ 宇和島市在住 学生時代からカメラをはじめ、本格的な写真歴は約 20 数年 奈良県明日香の写真家 上山 好庸氏に師事

「撮り歩きなんよ」(ブログ) <http://uwatu.blog135.fc2.com/>



「記憶の奥に漂う抒情」

画家 << MORIMOTO HIDEKI 森本 秀樹

長年、東京銀座を中心に活躍している画家の森本秀樹さん（73）は、実母の面倒をみるために帰郷して14年。現在も宇和島のアトリエで精力的に創作活動を行っている。

保育園の頃から絵を描くことが好きだった。森本さんの家は、生け花教室の材料手配と小売りをする花屋で変わったモチーフを探しに*1）三輪俊助さんが時々寄ってくれて、森本さんも自然に先生のアトリエで絵を習うようになっていた。

この時代、自営業の家に生まれた子供は、家業を手伝うのが当たり前で、松山から最終列車で届く生花を受け取りに行ったり、店の裏庭に集められた草花を管理するのが森本さんの役目だった。

花屋のお盆と年末は家族総出の忙しさで、戦争後遺症で体調を崩す父に代わり男仕事をこなしていた。なので、よく友達から遊びに誘われても家業の手伝いを伏せて断るのが、いつも嫌だった。

幼い森本さんにとって、夜の駅の赤や黄色のランプの灯も草花に触れる時間も、すべてが絵のモチーフに溢れた楽しい時間で、そうして頭の中一杯になったイメージを紙や黒板、トイレの壁に落書きしては親に叱られた。

*1) 本号 P9 からの「特集 三輪俊助」参照

小学校一年生になると先生の協力を得て、初めて美術部を作り活動を開始する。登校する朝に母親からよく花を持たされたが、誰かに見つかるに恥ずかしいので皆が来る前に教室の隅に花を上げていた。その内、自分で花を選んで好きなように生けるのが楽しくなっていた。

城南中学校に進むと昔から家族のように接している三輪田先生が美術教師として教壇に立っていて、おまけに先生の末娘がクラスメイトだったものだから、教室が騒がしくなると「静かにしろ」と大声で注意したりして気をもんだ。

高校は、宇和島東高に行くものだと思っていたら三輪田先生から宇和島南高を熱く勧められ宇和島南高に入った。当然、美術部に入り熱心な先生や楽しい仲間達と出会い、絵三昧の高校生活が始まった。そして、二年の時、特攻の生き残りの父が亡くなった。

子供の頃からずっと宇和島から脱出したかったので、母には申し訳なかったが高校卒業後は上京を決めていた。

しかし、美大へ通ったものの実技には学ぶべきものは何もなく、学校も安保闘争で閉鎖が続く、バイトばかりしていた。ただ唯一、民俗学者の宮本常一の講義がその後の生き方

や絵に大きな影響を与えてくれた。

美大を卒業して自由になり、バイト生活が始まった。それから3〜4年は絵らしい絵は殆ど描かず、バイトに明け暮れた。そんな時、友人の紹介で大きな寮のボーイラーマンの仕事をするようになった。

暗い半地下のボーイラー室の破れたソファの上にはギターがあり、宿泊所にはピアノが置いてあった。この不思議な空間に魅了されて、毎夜、仲間が集まり安酒を飲んで芸術談義に花を咲かせた。

「このボーイラー室で過ごした日々が私にとって大切な時間で、だんだん自分のやりたい事が見えてきたんです」

その後、結婚をし、創作活動を続けながら生活の為に高級ブランド紳士靴デザイナーとして浅草橋の会社で働いていた。会社のボーナスを注ぎ込んで初個展を銀座の貸画廊で開いた時、「宇和島は、どこの島ですか？」と沢山のお客に聞かれた。

丁度、高校野球春の選抜大会と個展日程が重なり、宇和島東高が優勝したお陰で翌日から、そんなお客は居なくなった。

ある時、市場調査という名目で会社を抜け出し、有名作家の個展を観に行ったら、その企画画廊のオーナーから声を掛けられて、後日作品を見せたところ、すぐに個展をやるこ

とになった。そして50点近く展示した作品がほぼ完売し、これを期に絵で食べて行く覚悟を決める。

そして、平成15（2003）年の*2）「宇和島」シリーズの発表で、その評価は揺ぎ無いものとなり、多くの画家たちと交流を深め、銀座界隈を盛り上げようとしていた矢先の平成22（2010）年に母が倒れ、看病の為に宇和島への帰郷を決断する。

花屋を廃業してアトリエと介護用の家に改装した。そして独居の母がお世話になった地域の人達への恩返しに気持ちで民生委員を引き受けた矢先に母が亡くなり、宇和島での生活に気が抜けてしまった。

森本さんにとって「絵を描く」とは、「自分の好きなことを一生続けるということ」だと言い、――「もしも、ブランド靴のデザイナーを続けていたら、ストレスで、もうとっくに死んでますよ」と笑う。

作品のイメージは、自身が「宝」と呼ぶ、幼少期から小学生頃までの消えずに残った感性の欠片だ。この欠片は、時に「宇和島」と断定され困惑するが、それは、「小さいころの記憶」で、このイメージのおかげで作品を生み出すのに苦労はないと言いつける。

今年は、4月に新しくオープンす

*2) 「宇和島 森本秀樹画集」は、宇和島市立図書館で貸出可能。

画集の巻末には、「私の描く風景が父の見ていた風景だったのかも知れないと、その時気づかされた」と記している



プロフィール

1951 宇和島生まれ 1971 武蔵野美術短大油絵専攻卒業 1977 千葉県展受賞（77～85年出品）
 1990 上野の森美術館大賞展出品（92年賞候補、93年佳作賞） 1991 昭和会展出品（92年出品）
 1999 日本国際現代美術展（NICAF）出品（01年出品） 2003 森本秀樹画集「宇和島」刊行
 2006 コレクターによる森本秀樹展—宇和島—（東京 Gallery KANI） 森本秀樹展—記憶の UWAJIMA—（宇和島生涯学習センター）
 2007 森本秀樹展 父の見ていた風景—宇和島—（長野 梅野記念館絵画館） 森本秀樹展（愛媛、畦地梅太郎記念美術館）
 2014 斎藤実コレクション—森本秀樹展—（東京、Gallery ゴトウ） 森本秀樹展（神奈川、museumfrom winds）
 2016 森本秀樹展（松山ミウラート・ヴィレージ）
 2022 森本秀樹・猛二人展「漂う抒情・記憶の軌跡」（愛媛、町立久万美術館）
 2023 森本秀樹展（静岡ぬましんストリートギャラリー）
 東京 Gallery ゴトウを中心に企画個展 100 回以上、グループ企画展多数 現在 無所属
 2010 年よりアトリエを千葉から宇和島に移す

森本さんの気取りのない、どこか懐かしくやさしい作品を図録や印刷物でなく、ぜひ本物をご覧頂きたい。
 インタビュー・構成／川尻純滋

「アトリエぱれっと GARO」での個展（P8 参照）と毎年秋に開催される銀座「GOTO」画廊での企画展が予定されている。



ユキの生れたT浦 OIL F50

森本秀樹展

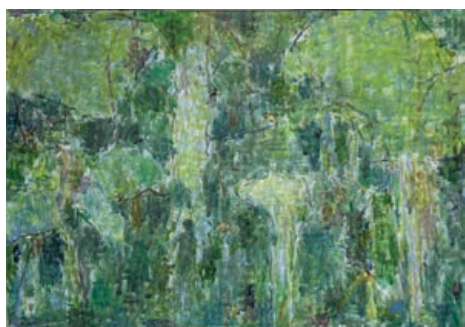
Morimoto Hideki exhibition

2025. 4/8^{thu} ≫ 4/20^{sun}

火～金 12:00 ～ 19:00 土～日 10:00 ～ 17:00 (最終日 15:00 まで) *月曜日は休廊



琥珀 MIXT



森の奥 MIXT

－ 精霊の気配 －

私は幼少期から自然の中に棲んでいる不思議な気配を「精霊たち」と呼んで密かに親しんだり怖がったりして過ごしてきました。大人になるにつれ感じることは少なくなりましたが、今でも目を凝らすと自然だけでなく日常のすぐ近くにも棲んでいる気配がして、懐かしささえ覚えます。

森本秀樹

会 場／**Atelier Palette GARO** (アトリエぱれっと ガロ)
宇和島市泉町2丁目2-10 (やくしじこどもクリニック跡) TEL.090-7784-4703



A portrait of an elderly man with grey hair, wearing a black high-collared jacket, with his arms crossed. The background is a neutral, light grey.

特集
三輪田 俊助

Miwada Shunsuke

三輪田俊助とは、

私が初めて三輪田俊助先生（以降…先生）の自宅を訪ねたのは1980年代中頃のことだったと記憶する。道路に面した生垣、奥の玄関へ続く煉瓦を敷いた通路脇の植込みや中庭の佇まいに植物を愛する画家のまなざしを感じた。アトリエに入ると正面の大きな掛け時計が目をつけた。その他、描きかけの絵やモチーフとなる静物の類が所狭しと置かれ、ここで日々思索を重ねながら制作されているのだろう。



三輪田俊助のアトリエ

以後、この訪問がきっかけとなり度々お宅にお邪魔するようになったが、先生は、いつも旺盛な好奇心と探求心に溢れ、お話し好きで、*1 瀧口修造のイメージと重なるようなところがあった。控えめで寄り添うようにしておられる奥様も瀧口夫人に

*1) 近代日本を代表する美術評論家、詩人、画家。戦前・戦後の日本における正統シュルレアリスムの理論的支柱 1903年（明治36年）～1979年（昭和54年）

似通った印象のある方だった。

先生は、愛媛の洋画家を代表する一人であり、度々宇和島に取材に訪れた小説家の司馬遼太郎とも交流があった。司馬遼太郎は著書「街道をゆく」のなかで、先生が史跡である城山に市が武道館建設を計画していることを知り、「城山の緑を守る会」を立ち上げて反対運動をした経緯について書いている。また、庶民の視点で戦争の悲惨さを後世に伝える「宇和島の空襲を記録する会」の冊子に毎回表紙絵と挿絵の提供をされていることも先生の人間性の一面を伝えるものである。

先生は、1913年に宇和島和霊神社の宮司の二男として生まれ、國學院大学に進学するが、洋画家で水彩画家として知られた*2 中西利雄と偶然の出会いから親しくなり、絵に興味を持つようになった。そして出品した日本水彩画展では、いきなり入選し、猪熊弦一郎の研究会に参加したり、川端画塾でデッサンを学ぶようになり、遂には親に無断で1935年に帝国美術学校（現武蔵野美術大学）に転入学するが、（徴兵のこともあり）「画家になりたい」というよりもそこへ行くよりほか、もう行き場がないといった追いつめられた気持ちだった」と当時を述懐している。

自由な校風のなかで新しい芸術思潮である*3 シュルレアリスムに魅かれ、1937年に学友の*4 浜田浜雄ら6人でグ

*3) 現実と夢が混ざり合った世界を表現する芸術運動で「超現実主義」と訳される *2) 日本の洋画家。透明水彩絵具に不透明水彩絵具を併用する新たな水彩技法を編み出した

ループを結成する。翌年の5月頃からほぼ月に一回、瀧口修造^{たきぐちしゅうぞう}を招いて批評会を行い、12月に「繪畫（絵画）」第一回展を銀座の紀伊国屋画廊で開催した。

瀧口が第一回展評を「アトリエ」に発表するが、その中で「二、三を除いてダリの*5 エピデミックな影響は、良いにつけ悪いにつけ考えさせられた」と評した。



〈風景〉1937年 町立久万美術館蔵

*4) 当時日本に流入したシュルレアリスム（超現実主義）の思想と美術に強く傾倒し、サルバドール・ダリを彷彿とさせる幻想的な作風で知られる

しかし、意外にも瀧口から「君の絵は*6 ルネ・マグリットのようだ」と言われたそうである。たしかに大地に屹立する大きな蝶を描いた「風景」と題する作品は、『だまし絵』のように見える。蝶の翅は朽ちた葉であり、胴体は囊^みのようで、左前方に落ちている翅の破片はまるで飛行機の残骸を想わせる。

*5) 流行、まん延

*6) 20世紀のベルギーを代表するシュルレアリスムの画家



「絵画」のメンバー（1940年）左から、浜田浜雄、石井新三郎、武内秀太郎、三輪田俊助、田中素生（田中坦三の兄）、田中坦三

この作品は「急速に戦時体制へと傾斜していく時代のなかで抑圧され、傷ついている前衛美術そのものを象徴しているかにみえる」（大熊敏之「日本超現実主義絵画にみる蝶と貝のモチーフ」）蝶の夢・貝の幻（927〜1951展・三岸好太郎北海道立美術館1989年）と評されるなど、日本のシュルレアリスムの代表的な作品として、しばしば取り上げられることになる。



せいけ かつひさ
清家 克久

1950年宇和島市生まれ
美術コレクター、執筆者



〈少女像〉1946 年

帰郷したものの空襲で家は焼け跡となり、そこにバラック小屋を建て父母と一緒に自給自足に近い生活を送っていた頃、知人から貰った油絵具で拾ったタイルに描いたのが「少女像」だった。わずか15センチ四方



美術新報の表紙

「繪畫（絵画）」としての活動は1940年6月の第四回展をもって終わり、やがてグループも解散するが、1941年6月には治安維持法違反被疑で杉並署に拘留されていた瀧口のもとへ仲間の浜田、立川と一緒にお金を出し合って果物の差入れをしたこともあったという。

卒業後は「旬刊美術新報」の編集の仕事に就くが、1942年に応召され徳島連隊で三年間を過ごし終戦を迎える。

戦後は中学校教員として勤務する傍ら、中央画壇や公募展とは一線を画し「愛媛現代美術家集団」や「シコロ」など革新的なグループを結成し、地方での活動が中心となるが、1964年に銀座のサエグサ画廊で行った個展では、現代画廊を経営し「気まぐれ美術館」の著者で知人でもある*7) 洲之内徹が「美しい白と青」と題して展評（愛媛新聞）を寄せ、「仕事のほうはすこしも中央との距離やずれを感じさせない」と書かれたことが励みになったという。

「戯れ」「白い部屋」などの作品には抽象表現主義の影響も見られ、常に新しい表現を追求していたことが伺える。

*7) 日本の美術エッセイスト、小説家、画廊主・画廊。愛媛県出身。



〈城山〉1946 年

そのなかで私が言いたかったのは、先生が一貫してシュルレ

その二十年後の1984年には美術評論家の坂崎乙郎の紹介で東京新宿の紀伊国屋画廊で新旧の作品による個展を行っている。1997年にはそれまでの画業の集大成として、町立久万美術館で回顧展が開催されることになった。その図録に先生の盟友である*8) 浜田浜雄やシュルレアリスム研究家で板橋区立美術館主任学芸員（当時）の尾崎真人らと共に私が寄稿させていたことになったのは、先生と松岡義太館長（当時）の強いお勧めがあったからである。そして、展覧会の感想のつもりで書いた文章を先生が愛媛新聞社に紹介し、それが展評として掲載されることになったのである。



〈戯れ〉1964 年

*8) 昭和前期、日本で急速に浸透したシュルレアリスムの影響を受けた作家 瀧口修造や詩誌『新領土』の詩人たちとの親交もあり帝国美術系のグループ「絵画」を結成した



制作中の三輪田俊助（1996 年）

をとっておられたそうである。

2012年には松山市のミウラト・ヴィレッジで「ふるさとを愛した画家三輪田俊助展」が開催され、先生はそれから三年後の2015年5月30日に百一歳の天寿を全うされたが、百歳を超えてもなお、絵筆をとっておられたそうである。

先生自身も画業を振り返って「風景と自分との関係性というか、無意識の世界を引き出して行く感じです。それはつまり、シュルレアリスムの発想。要するに六十年たって、手法は違っけど、らせん階段を上がるように元のシュールに戻って来たんだね」と語っている。

アリスムの精神を持った画家であり、単に「土着の画家」と呼ばれることに異を唱え、優れた画家は住む場所がどこであれ、自然や人間の営みのなかに潜む宝（本質）を見出し、普遍性に達する表現ができるということだった。

父は戦前、九段の美術新報社という出版社で編集者をしていた。作家（高村光太郎や小倉遊亀ら）に原稿を受取りに行つて本を作った。その本を私の娘が国会図書館でコピーをして来た。父は書体や紙の種類を変え、販売数が増えたことなどを懐かしく話した。

戦争が終つて宇和島へ帰ると、市内が焼け野原になっていて、その中で焼け残つた城山に感動し、一年後に「城山」を描いた。自宅も、和霊神社の本殿・御門・神楽殿・防空壕に入れていた宝物まで焼けてしまった。落胆した祖父と神社の復興をしていたが、教員の半数が戦死したため、教員になつたらしい。月曜日から土曜日は学校、日曜日に絵を描く葛藤を原稿用紙に綴っていた。

小さい頃から絵が好きだったようで、家のふすまに描いた絵がとても上手だったと、父の妹が話していた。「國學院大學をやめて美術学校に入ったことを父は反対したが夏休みに『肖像画を描いてくれ』と暑い中キチンと紋付きを着て座り、出来上がると非常に喜んだ」と愛媛新聞の「父を語る」に書いている。

父のこと

河野 たか

アトリエを片づけていたら小学校時代の集合写真が出てきた。みんなが簡素な着物を着ている中、父一人羽織袴に厚い草履をはいている。子供の頃から身を律して暮らしていたんだろうか。

晩年「みんなに良くしてもらつて幸せだった」と話した。多くの作品と、コレクション（同じ絵画グループの柳宗理さんを通じて知った柳宗悦さんの影響を受けた）を残してくれた。

亡くなる前日も指でフレームを作り、構図を考えていた。

父と母がいなくなつて私は急に不安になった。



〈羊歯〉1964年



城南中学校の機関誌「南苑」の表紙絵も俊助作



宇和島市立図書館開館20周年を記念して制作されたハガキも俊助作



美術新報社で編集した「美術新報」戦前の日本語は右横書きが一般的だったが、俊助は「レオナルド・ダ・ヴィンチ」を現代と同じ左横書きを採用し好評を得た



〈都市〉1938年



昭和14（1939）年 徴兵検査で丸坊主の三輪田俊助（右）と浜田浜雄（左）

私の出発点

薬師神

親彦

アートディレクター

私が三輪田先生（以下…先生）に初めてお会いしたのは、小学3年生の時、母に連れられて絵画教室で教えて頂くようお願いに城北中学校に行った時です。母も女学校ごろ先生に水泳を教えて頂き、赤松遊園地から戎が鼻（戎山）まで泳いだそうです。そして、妹も城南中学校在学時に一年間、先生が担任したクラスで学び、大学の教育実習でもお世話になりました。

また、先生は多くの方に絵を教えられ、昭和38（1963）年に＊シエル美術賞を受賞された福井信さんをはじめ、森本秀樹さんなど、教え子の中には画家になっている方もいらっしゃいます。

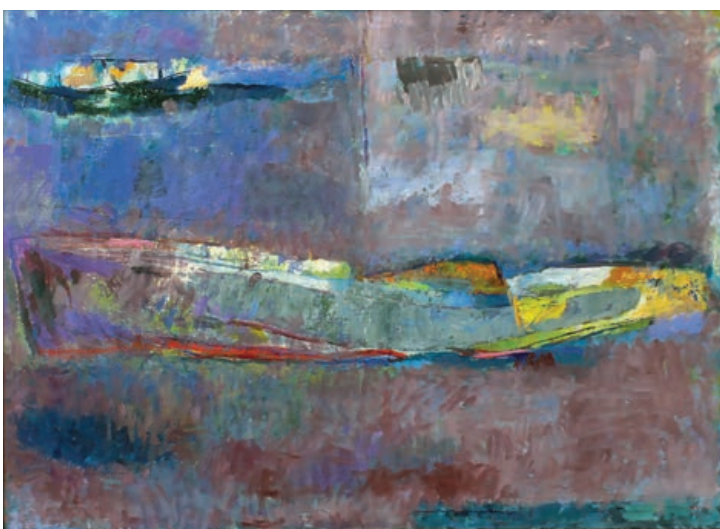
私が東京でデザインの勉強をする時に先生から紹介されたのが、「絵画」のメンバーで盟友の浜田浜雄さんでした。

戦時中、先生の絵は浜田浜雄さんの故郷（山形県米沢市）で保管されていて、私が仲介をして先生の元へお返しすることが出来ました。

私が桑沢デザイン研究所でデザインを学んでいた頃、帰郷した際、宇和島駅で大きく手を振って見送って下さった姿を今でも鮮明に覚えています。

美術学校時代、シュルレアリスムと出

＊1956年創設「国内の文化・芸術の発展に寄与したい」との思いから始まった完全公募制の美術賞。その後、「昭和シエル石油現代美術賞（1996～2001年）」、「シエル美術賞（2003～2021年）」と名称を変更し、現在の名称は「Idemitsu Art Award」



〈船形〉2012年（制作中）

会い、戦後、焼野原の宇和島で「少女」と「城山」を描き、作品は抽象へ、そして未完の「船形（左の作品）」を遺し先生は旅立たれましたが、改めてこの作品を見ると、先生でなければ成しえない、シュルレアリスムの到達点を見たような気がします。

私は、デザインの道に進みましたが、生生との出会いが私の出発点であることに違いはありません。



岡本太郎美術館での「顕神の夢—幻視の表現者」展に飾られた三輪田先生の「風景」（右）と中央と左は芥川隣太郎氏の作品

「風景」との再会

森本秀樹 画家

岡本太郎美術館を皮切りに2023年から2024年にかけて全国5か所の美術館を巡回する企画展「顕神の夢—幻視の表現者」が開催されました。この展覧会は、霊性の尺度で特異なる表現者の作品を再認識、再評価が目的の企画展でした。この展覧会に宇和島を代表する（故）三輪田俊助先生の1937年制作「風景」が選出されました。

「風景」は、20号Fサイズ程の大きさで、暗く拡がる遠景に大きな蛾がボロボロになった羽根を広げて立ち上がる幻像を作品にしています。シュルレアリスムに魅かれ、グループ「絵画」を結成した頃の作品とお聞きしています。

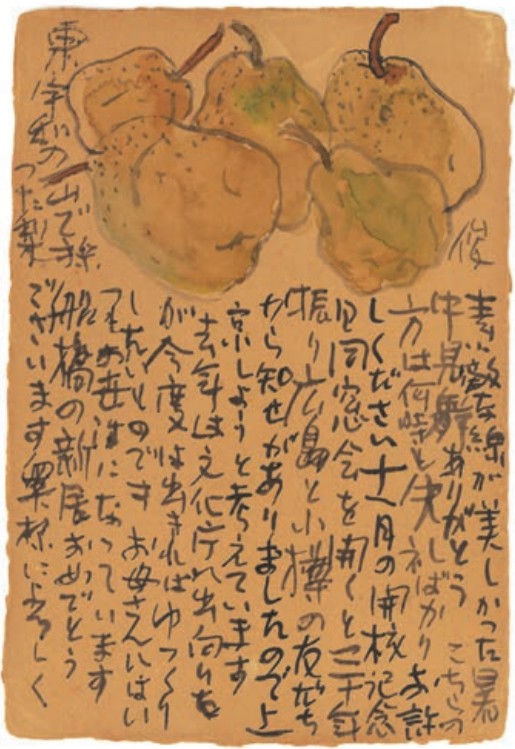
東京での私の個展日程が運良く展覧会に重なり、久しぶりに先生の「風景」との再会が叶いました。

また、この展覧会に私の尊敬する画家の芥川隣太郎、藤山ハンの両氏も選出さ

れたので、私は画廊を早めに抜け出して横浜での祝賀会に駆け付けました。

翌日に美術館を訪ねたら、偶然にも先生の「風景」の隣りに芥川氏の作品2点が並び、すぐ近くに藤山氏の作品3点が並んで居て驚きました。その他、村山槐多、関根正二、萬鐵五郎など特異なる大家達が並ぶ幻視の迫力に圧倒され見応えある展覧会でした。

時代を超えてなお色褪せない幻視の魅力、そして繋がる不思議な出会い、御縁に感謝の気持ちを込めて、先生の「風景」に一礼して美術館を後にしました。



結婚して団地に引っ越した時に三輪田先生から届いたハガキ（1977年ころ）



宇和島空襲死没者追悼平和記念碑（和霊公園）
※文字は伊藤道也氏



俊助が注文にいった和霊神社の鳥居は、石造り（庵治石）
としては日本一の大きさと言われる



俊助がデザインした「べにばら」の包装紙は何種類かあって、包装紙のコンテストで受賞もしている（上：初代）



現在の城北中学校の学生カバン
（協力：フレンディ）
「北」の字をモチーフにデザイン
されていて、左の印に彫られて
いるモノは現在の校章とは少し
異なっているように見える

三輪田俊助の足あと

俊助が遺こしたモノたちが
今でも宇和島市内のあちこちで
声なき声を発している



司馬遼太郎が宇和島に来ると
会食を楽しんだ斎藤鮮魚店の
マッチやほづみ亭の看板も俊
助のデザインだ



宇和島ライオンズクラブ創立 30 周年記念に南予
文化会館に設置された巨大なレリーフは、和霊
神社の大鳥居と同じ業者が制作した



俊助がデザインした、清酒名門の紙パック
左が 2 級酒で右が 1 級酒



1964 年の東京オリンピックの跳馬（体操）で金メダルを
獲得した松田治広氏を顕彰して造られた記念碑は和霊公園
から宇和島市の総合体育館に移設されている

「三輪田俊助ギャラリー」の公開準備すすむ



棚にはコレクションの一部が、壁には若い頃の作品が展示されている

2015年に101歳でこの世を去った三輪田俊助（以下…俊助）の作品やコレクションを後世に遺そうと、河野たか（俊助の長女）さんを中心に準備が進められている。

アトリエのあった自宅を改築したギャラリー（2階）は、すでに完成しており、今後はアトリエを整備し、夏頃をめどに作品やコレクションなどを整理し、どのように公開していくか決めるという。

ギャラリーに入ると左手には戦前の作品やコレクションの一部が展示されていて、それらに続いてシュルレアリスムの作品などが並ぶ。そして、その対面には抽象や晩年の未完の大作「船形」を観ることができ、また、俊助は地元の様々な印刷物の挿絵などを数多く手がけていて、それらは、絵画とは一味違った趣があり興味深い。



表紙絵や挿絵を手がけた様々な印刷物



未完の大作「船形」などが並ぶ



愛媛県農協婦人組織協議会機関誌の表紙絵も担当していた



城北中学校の文化祭ポスター



べにばら HP



instagram



facebook



1954 年頃 高島功先生と絵を描く子供の頃の現講師 吉田淳治 (画家)



1950 年頃のべにばら外観

「べにばら」 絵画教室の歴史

新設クラス

4月からは、加えて吉田桃子講師による大人対象の別のクラスが始まります。内容は、和気あいあいとお茶をしたり、お喋りをしたりしながら気軽に絵を楽しむ、ご高齢の方でもくつろげるサロンのような新たな場になればと思っています。

ご一緒にませんか。



創業1947年の「べにばら」は、万年筆などの文具から始まり、次第に洋画材料、額縁などの美術用品を扱う店に変わり、宇和島初の画廊も開設。また、1950年頃には既に絵画教室が始まっており、今に至る長きに亘って続いています。

最初の講師は、高島功先生、三輪田俊助先生で始めました。その後1977年からは「アトリエ堀端絵画教室」として、現在の吉田淳治先生（大人クラス）、吉田一美先生（こどもクラス）で続いています。これまで入会のあった人数は、現講師からでも受験生を含め二千人を超えています。中には40年以上今も通われる方も。

当教室は、絵の面白さも難しさも味わいながら、個々の描き方で自由に表現していただく場です。



アトリエ堀端絵画教室 (べにばら内) 宇和島市本町追手 2-8-6 TEL 0895-22-1104 benibara.art@gmail.com ※各 SNS の DM も OK



◆ル・サロン展 5 年連続入選記念◆

ハマノ ツトム グループ展

会 期／2025 年 4 月 11 日 (金) ～ 13 日 (日) 9:00 ～ 17:00

会 場／うわじま きさいや広場 市民ギャラリー (入場無料)

主 催／アートギャラリー TOM (代表ハマノツトム) ☎0895-25-5346

〈出 展 者〉

ハマノツトム・夏井規子

高田千恵・高木益江

福田りおん (小学 3 年生)

(アトリエぱれっとガロ)

Atelier Palette GARO.

2025

4.8 TUE **OPEN!**

○ 絵画教室

○ ギャラリー

○ カフェ



画像はイメージです



宇和島市泉町 2-2-10

(やくしじこどもクリニック跡)

TEL : 090-7784-4703

HP : <https://www.art-palette.com/>



宇和島をアートの街に

「観る」「創る」「楽しむ」

「食べる」「育む」

(=五感でアートを感じる)

場所づくり

宇和島信用金庫 2026年版カレンダー用 作品公募展のご案内

今年も宇和島信用金庫のカレンダーに使用する
作品の公募展を開催いたします。

テーマは「南予」、募集期間は7月末までです。

絵画でも写真でもかまいません。

【公募展】

会期：2025年8月5日(火)～10日(日)

会場：宇和島信用金庫 新橋支店 2F セミナールーム

賞金：最優秀賞(カレンダー採用) 1点 50,000 円

優 秀 賞(会期中最多得票作品) 1点 30,000 円

佳 作(絵画2点、写真2点) 各 5,000 円

特 別 賞(アトリエぱれっと選) 1点 5,000 円

※応募要綱をご確認の上、奮ってご応募ください。

〈お問い合わせ〉

090-7784-4703 (アトリエぱれっとガロ)

あなたの作品が
最優秀賞金 50,000 円
優秀賞 30,000 円
優 秀 賞 5,000 円
佳 作 5,000 円
特 別 賞 5,000 円

宇和島信用金庫カレンダーになる

制作テーマ
南予
N A N Y O

募集期間
2025年8月4日(月)
最終受付日 2025年8月4日(月) 13時～16時
郵送受付日 2025年8月1日(金) 必着
受付場所 / 宇和島信用金庫新橋支店2F セミナールーム

宇和島信用金庫

主催 / 宇和島信用金庫 運営 / アトリエぱれっと

公募展 2025年8月5日(火)～10日(日) 10:00～17:00
会場：宇和島信用金庫 新橋支店 2F セミナールーム
宇和島市丸之内5丁目3番1号 お問い合わせTEL: 090-7784-4703

ポスターデザイン(高校生アーティスト・アーティーン伊藤 希)

応募内容の詳細を知りたい方は、こちらのQRコード、
お電話またはWebサイトをご覧ください。

●「牛鬼の版画家 兵頭俊朗先生からの手紙」

B5判 170頁 1,650円(税込) 限定200部

販売店：べにばら画廊

制作・編集 清家克久(美術コレクター、執筆者)



約25年間に亘り、兵頭俊朗先生から清家克久さんに届いた100通にも及ぶ手紙、年賀状、絵葉書の数々。年代ごとに追っていくことで、兵頭先生の版画家としての歩みと人柄が見えてくる貴重な資料です。そして、資料としてだけでなく、文と字と絵の三位一体となった作品の魅力にも溢れています。

●畦地梅太郎「石鎚山と故郷の風景」

会 期：4月25日(金)～7月21日(月)

AM9:00～PM5:00(入館受付はPM4:30迄)

畦地梅太郎は、愛媛県北宇和郡二名村(現：宇和島市三間町)出身の版画家です。今展では、当館が所蔵する石鎚山を描いた作品と愛媛の山々や風景を描いた作品を一堂に展示します。また、梅太郎が版画で制作した「蔵書票」も展示します。「山の版画家」といわれた梅太郎の山の作品に込めた想いや故郷へ寄せる深い郷愁の念を感じていただければと思います。



お問合せ / 畦地梅太郎記念美術館・井関邦三郎記念館

休館日 / 火曜日(祝休日の場合は、その直後の平日)

宇和島市三間町務田180-1「道の駅みま」併設

Tel / Fax. 0895-58-1133



仙台フィルメンバーと
仙台のピアニストによる

名曲の午後

仙台市・宇和島市姉妹都市50周年記念

会 場 / パフィオうわじまホール

2025年
4月27日(日)

開 場 / 14:30 開 演 / 15:00

入場料 / 一般 2,500円 高校以下 1,000円

※当日券は500円増し

※未就学児は入場できません

お問合せ / 0895-49-5922

主 催 / 宇和島市生涯学習センター

協 力 / (公財) 仙台フィルハーモニー管弦楽団



読者プレゼント

抽選でペア招待券を
3組様にプレゼント

《応募方法》ハガキ、メールで住所、氏名、連絡先、年齢、性別、本誌へのご意見感想をご記入の上、下記までお送り下さい。

《応募先》〒798-0041 宇和島市本町追手2-4-10

宇和島信用金庫 業務推進部 広報文化室まで

メール：uwashin-gyousui@uwajima.shinkin.jp

《締切り》4月10日

QRコードから
ご予約できます





文ちゃんどつぽの 予土線のあの人に会いたい11

映画監督

おお もり けん いち

大森研一さん



最寄駅は「近永駅」(本当は渋谷駅)

文／山下文子
写真／坪内政美



「予土線って、どこに連れて行かれるんだろうみたいな空気感ありますよね」と話すのは、砥部町出身で東京在住の映画監督、大森研一さんだ。1975年生まれ、49歳。頭の中はいつも映画のことばかり考えている大森監督が、予土線を撮影しているというもんだから、うかうかしてられない！話を聞かずにいられないではないか！監督が帰省中のタイミングに合わせてさっそく砥部町の「砥部焼観光センター炎の里」を訪ねた。

なんと去年の秋に鬼北町で完全非公開放で撮影が行われていたのだ。全編鬼北町ロケで行われたという映画のタイトルは『鬼ベラシ』。『鬼』のつく自治体だけに、映画も『鬼』が主役だという。大森監督がメガホンを取り自ら脚本も手がけている。『ちよとど鬼北町が合併20年の記念でもあるし、いろいろな人との出会いがあって、鬼北町や予土線を盛り上げたいという気持ちが一致したのがきっかけです』という。

振り返ると私と大森監督との出会いは、2015年の宇和島を舞台にした映画『海すずめ』の撮影取材した時だった。監督は炎天下の中、モニターを真剣な眼差しで覗き込んでいた。私は、映画の制作現場を目の当たりにしたのが初めてで、半ば野次馬気分、ずっとウキウキでハイテンションだったことを覚えている。

さらに、2019年には監督の地元である砥部町を舞台に映画を撮影していると聞き取材させてもらった。この時は、「男はつらいよ」でお馴染みの寅さんの甥「満男」役の吉岡秀隆さんが出演していたこともあり、現場で「うわ〜満男や〜」と大興奮で高鳴る胸を押さえきれなかったほどだ。と、それはまあいいとして(笑)大森監督が地域を舞台に映画を撮影すると、これまでの見慣れて

いた景色が劇的にドラマチックに見えるという感動を私は知っている。鬼北町もさることながら、予土線もきつと、さぞ。

「僕は無人駅がいいなと思うんですよ。切なさというか、都会には絶対にないでしょ。あの風景は撮ろうと思っても撮れない、そこにしかない風景なんです。人の気配を感じないというか、それは映画づくりをするのにすごく魅力的」

駅に人が居ないというのは、本来の駅の役割としてはどうなのか、なんて考えてしまうけれど、たしかに大都会の人まみれの駅と比べたら、そりゃあもう驚くほど人の気配はない。そこに立つだけで、目の前の景色は独り占めだし、もうこのまま誰にも会わないんじゃないかというくらい逆に不安になるほどだ。

しかし、映画の内容を聞けば、今回はバトルアクションだということではないか。これまでの大森作品からは想像できない展開になるのか？

もしかして、近永駅が爆破されたり、ワンマン列車が真つ二つに割れたりしちゃうのか、いやいや・

・・・「鬼の一族、
『鬼女』が増えす
ぎてしまつて、国

が鬼を減らそうと
いうことで、鬼と
人間、鬼と鬼の戦
いが繰り広げられ
る。その中で友情

だったり、裏切りだったり、色々な感情が交錯していくんですけど、やっぱりそういう心情を描く場面でも予土線がいい場所になってくるん



鬼北町の鬼をデザインした「鬼列車」も絶賛運行中！

ですよ」と軽く内容を明かしてくれた。

主演したのは、愛媛県出身のアイドル、STU 48の中村舞さんだったり、スタッフも愛媛出身者だったりと地元愛あふれる人たちが関わっているという。わずかに予告編のみを公開しているだけに、早くも情報をかぎつけた人たちが予土線に乗り来ているという話もあるほど。映画が公開となった晩には、予土線にもっともっと注目が集まる予感がしちゃうなあ。現在、まだまだ絶賛編集集中とあって、公開は初夏を目指しているそうだ。

「映画を見た人が、『どこだよ、ここ』って思つてもらつて、最終的には『どこだろう』イコール『行つてみたい』って言う風に繋がっていきたい。公開後には、予土線の乗車率10倍ぐらいにしたいです。やりやすいですね」と意気込む。

さらに大森監督は、この映画をきっかけに地元の人たちがどんどん地域を発信する商品を開発したり、観光人口や関係人口の増加につながるような動きが出てきてほしいと望んでいる。私の父が、鬼の角ならぬ鹿の角をアクセサリ―やキーホルダーにし

YouTubeで
予告編公開中



「よどせんとりてつマップ」を手に予土線撮影地についても話が弾む

て道の駅で販売していることをうっかり監督に話すと、「わあ、いいじゃないですか。映画ではまさに鬼の角狩りをするんですけど、本当に鹿の角って鬼の角と言ってもいくらい造形が近いですから、もうどんどんやっちゃってください」とお墨付きをいただいた。いやはや、手前味噌ながらどうもありがとうございます。

そして、「本当は僕自身も撮影するばかりじゃなくて、沿線のみなさんといつしよに予土線に乗って飲みに行ったりしたいんですよ。大人の遠足みたいで楽しそうじゃないですか。連れてってくださいよ」と茶目つ気たつぷりに本音をこぼす大森監督。

はい、もちろんぜひ一緒にしましょう！鬼のように楽しい美味しい予土線の旅をご案内します。どこに連れて行かれるかは、お楽しみということで・・・。



テラスにあった線路の枕木を見て「これ、予土線の枕木だったりして」とつぶやく大森監督



山下 文子 (やました あやこ)

宇和島市出身、鬼北町育ち
予土線沿線は県をまたぐも「ザ・生活圈」。鉄道を始め、乗り物は何でも大好き 座右の銘は「その角を曲がれば、旅」(※永六輔氏のうけうり)
「四万十の鉄道 予土線」のホームページでコラムを担当



坪内 政美 (つぼうち まさみ)

スーツ姿で撮影するという奇妙なこだわりをもつ鉄道カメラマン・ロケコーディネーター 各種鉄道雑誌などを執筆する傍ら、テレビ・ラジオにも多数出演。町おこし列車「どつぽ列車」を主宰し、駅スタンプを製作・寄贈する活動を行っている
高知県予土線利用促進対策協議会アドバイザー

四万十川の
鉄道よどせん



協力：高知県予土線利用促進対策協議会

いのちのはなし グー チョキパー 11



「子ども教室で郷土料理に挑戦しています！」

文 / 毛利弘子

「この葉っぱを知っていますか?」、「知つとる。葉っぱです!」、と自信満々の返答。「ごめん、ごめん、質問の仕方を間違っていたね。葉っぱの名前です」「……?」「お母さん達は御存知ですか?」、「……?」。昨年の夏、和霊公民館で実施した「夏休み和霊子ども教室、おやつ時間ですよ」で、さんきらの葉を使った「炭酸鰻頭」に挑戦したときの、親子との会話です。私達、昭和の人にとっては、幼い頃の贅沢なおやつでした。近くの山に、さんきらの葉を取りに行ったら、ご褒美に母親が作ってくれた等、懐かしい思い出が、きつと皆さんもたくさんあると思います。材料は、とてもシンプルで、粉・あんこ・砂糖・牛乳です。親子で悪戦苦闘しながら、あんこをこねて入れ、さんきらの葉に載せて蒸し器で蒸したら出来上がりです。形や大きさは様々、個性的で昔懐かしい、炭酸鰻頭が出来上がりました。「これは、私の! これは僕が作った!」など、笑顔いっぱい、大満足の教室になりました。

第3回の教室では、「ふくめんと三間の桜いなり」に親子で挑戦しました。少しハードルが高いかなと心配もありましたが、なんのその、無事完成してお腹いっぱい、大満足の教室になりました。

大人が思っているほど、子ども達は、出来ないのではなくて逆に私達がさせていないのかもと思ってしまう。お手伝いに「食改和霊支部の方々にも協力してもらっていますが」「あなたは、あそこのお孫さんやね」、「登校、下校の時に会うよね」など、地域の交流の場ともなっています。これを機会に地域のおばちゃん達と

* 宇和島市食生活改善推進協議会和霊支部

お互いが顔を覚えて、気軽に声を掛け合うきっかけになれば、安心・安全な町作りにもつながるかもと思いは広がっていきます。

A 小学校の学級PTA活動から、人数が多く予算も少ないのですが、「郷土料理らしき物」は出来ないですか? の依頼を受けた時は役員さん達と何度も話し合い、えひめの美味しい「みかんジュース」を使った夏のおやつに挑戦してみました。みかんの白玉だんご・簡単みかんのカップケーキ・みかんジュースの寒天ゼリーを作りました。参加して下さっていたお父さんからは、「料理は科学ですね」と、料理の楽しさに目覚めてくださいました。

以前、食改さんの活動としても御紹介しましたが、各学校にも「郷土料理研究会」として、鯛そうめんや卵かん・ふくめん等「うわじまの味」の普及活動にも行っています。子ども達や若い保護者の方々との交流の中から、私達もたくさん学びや発見があります。そして、「おいしい!」は、気持ちや人間関係をより豊かにしていくという事を実感しています。宇和島には、自然豊かな海や山があり、沢山の方々が「美味しいみかんや野菜・魚等」作りに日々奮闘されています。何より、ほっこり温かい人間関係がそこにはあります。

郷土料理教室で、その事も子ども達にしっかりと伝えて、「郷土・宇和島愛」がより大きくなったらと願っています。



毛利 弘子プロフィール

1952年生まれ 公立小中学校養護教諭を40年経験後2012年定年退職
ライフワークの性教育の講演や全国大会での研究発表多数
●受 章/平成24年愛媛県学校保健功労賞 令和3年文部科学大臣学校保健功労賞
●執筆/「いのちのはなしグーチョキパー」(エデル研究所出版)
●その他/・和霊公民館運営審議委員・更生保護女性会副会長
・退職公務員連盟中央分会副会長・和霊小学校読み聞かせボランティア
・カサヨハネ(知的障害児)放課後デイサービス非常勤講師ほか
●趣味/陶芸・登山・写真・絵手紙・歩き遍路・シーボーンアート



もうりひろこ(著) みずせき ゆりえ(絵)
価格 1,572円(税込)

南予の祭り歳時記

卯之刻相撲
(宇和島市)



卯之刻相撲 写真提供／北濱一男

相撲は日本古来の伝統的競技である。現在では国技館等で行われる「大相撲」をすぐに連想するが、元来「競技」であるとともに、豊作祈願や除災招福の「神事」としての側面も持っていた。相撲の起源を紹介する『日本書紀』垂仁天皇紀には、野見宿禰と当麻蹶速の相撲が相手をつぶす程の力強い足踏みであったことが記されているが、四股も、語源は醜足の略語で、踏みつけることによって邪霊を退散させ、安穩を得る意味がある。この呪的な動作が相撲の神事的要素の根本であり、後に様々な祭りや民俗芸能に相撲が取り入れられる要因ともなった。

愛媛県内の民俗行事の中にも様々な神事相撲が伝承されている。有名な行事としては今治市大三島町の大山祇神社「二人角力」(旧暦5月5日、9月9日)、西予市野村町の「乙亥大相撲」(11月下旬)、そして宇和島市吉田町の吉田祭(11月3日)の「卯之刻相撲」がある。

乙亥大相撲では、最後、大関戦の両者が徳儀上に立ち、梵天に両手をかけて、関係者が囲むように土俵に上がる。そして行司が次のような口上を述べて終了する。「ハア、沖は大漁、陸は満作、富貴繁盛と打ちましよう。ハイ、シャン、シャン、もう一つ祝って、シャン、シャン、祝ってシャンで、シャン、シャン、シャン」。

愛媛大学地域協働センター南予 副センター長

おおもと たかひさ
大本敬久



1971年 八幡浜市生まれ、西予市在住。専門は民俗学・日本文化論。著書に『愛媛の民俗一冠婚葬祭編一』(愛媛県文化振興財団)。愛媛県歴史文化博物館勤務を経て、現在、愛媛大学地域協働推進機構特定准教授。

五穀豊穡、豊漁を祈願し、結局、最後の力士は勝敗をつけない形で乙亥大相撲は終わる。翌年への持ち越しとして、来年以降も相撲を奉納し、豊作の恵みが続いて永く野村地域の安心、安寧が確保されることを意図したものと思われる。

最後は引き分けとする。この形態は宇和島市吉田町の吉田祭(令和7年3月に国の重要無形民俗文化財に指定)の中の「卯之刻相撲」でも見られる。毎年11月3日、吉田町立間にある八幡神社で午前5時(卯之刻)より神輿への神霊奉遷に先立って神前に奉納される神事相撲である。立間地区を本村と長谷に区分し、それぞれより3人の力士が参加するとともに行司1人がついて八幡神社の神前で取り行われる。取組は、小結・関脇・大関と東西で固定しており、四股名はそれぞれ「島の巖山」と「権現山」、「天神山」と「八坂山」、「龍王山」と「八幡山」となっていて、2度目の取組の途中で行司が東西の力士の背中を押さえて止めに入り、「(〆)名人(〆)名人、この相撲明年まで行司預かりといたす」の口上で勝負なしとしてすべての取組を終了することになっている。地区を二分して相撲を奉納する形なので、勝敗をつけず、翌年への持ち越しとすることで、地区全体の繁栄を願うという意味だと思われる。

頭痛について

頭痛は、他に特に原因や疾患が見当たらない「頭痛そのものが病気」の一次性頭痛と脳出血や外傷、脳腫瘍などの他の病気に伴う二次性頭痛に分かれます。

一次性頭痛の頻度は25%程度と推測されており、誰にでも起きうる疾患です。一次性頭痛で一番多いのが緊張型頭痛です。頭全体が締め付けられるような両側性の頭痛で拍動性はなく、痛みは軽度から中等度です。吐き気は伴わず、運動などでの増悪はありません。発症にはストレスや筋肉の緊張などの身体的・精神的な原因が引き金になることがあります。月に1回程度の頭痛であれば市販の鎮痛剤で様子を見てもよいのですが慢性化したり、頭痛により日常生活に支障をきたす場合には受診をお勧めします。

次に多いのが片頭痛です。頭の片側に拍動性の痛みが繰り返し生じます。睡眠不足や過労などのストレスが引き金になることが多いのですが、ストレスから解放されたときに生じることもあります。月経周期や気候の変化が誘引になることがあります。

頭痛は強く、吐き気を伴うことが多く、動くが増悪します。女性に多く、しばしば頭痛の前に視界にギザギザした光が現れるなどの前兆が起ることがあり、その後、1時間以内に頭痛発作が起ります。光や音に敏感になったり、通常は痛みを感じない触覚刺激に対しても痛みを感じてしまうなどの感覚異常が起ることもあります。

頭痛は、4時間から3日間くらい続くこともあります。片頭痛自体が命にかかわることはありませんが、症状が強いため日常生活にさまざまな支障をきたします。偏頭痛の3/4の方が日常生活に支障があり、3割の方が寝込むことがあります。片頭痛は治療や予防が可能な病気であり、専用の薬剤もありますので症状が強い場合は医療機関を受診しましょう。頭痛が月に15日以上、頻度で3カ月以上続く慢性片頭痛は専門医での治療が必要となります。

群発頭痛は頻度が0.1%以下と稀な頭痛ですが、症状が極めて強く目をえぐられるような激しい片方の頭痛が1〜2カ月の間、毎日生じます。通常の鎮痛剤は効果がなく、

専門医での治療が必要です。

二次性頭痛には危険な頭痛が含まれています。激しい頭痛が突然生じた場合はくも膜下出血などの重篤な疾患の可能性があります。発熱を伴う時には髄膜炎や脳炎も疑われます。強い目の痛みを伴う時には緑内障発作の可能性もあります。頭痛持ちの方でも、これまでの頭痛とは違う強い頭痛を感じた場合は危険な頭痛の可能性があります。痛みがどんどんひどくなる、体の麻痺やしやべりにくいなどの神経症状を伴う、意識障害や痙攣を伴う場合には直ぐに救急車を呼ぶべきでしょう。



沖内科クリニック
副院長 沖 良隆

野菜とれていきますか？

「高齢の方から、「便秘」の訴えを聞くことがよくあります。その原因としては、老化による身体機能の低下が一番にあげられますが、栄養の偏りが影響している場合も多いように感じられます。」

加齢に伴い日常の運動量が少なくなり、それに伴い食事量も減少する。あまり食べられないので好きなものだけ食べるようになります。嗜好品に偏る。こんなことはありませんか？

便秘の改善方法として、栄養素の中では排便をスムーズにする食物せんいをとることが重要とされています。食物せんいは、その性質により2つの種類に分けられます（下表）。

私たちの体に必要な「食物せんい」量は以外に多く、献立を立てる際、必要量を満たすのにいつも苦労していました。毎日の食事を栄養計算しながら食べるわけにはいかないので、必要量を満たすポイントを簡潔に述べると「野菜をしっかりと食べましょう」という所に行き着きます。厚生労働省では一日に食べる野菜摂取の目標量を「350g以上」としていますが、現在までの「国民健康・栄養調査」を見ると目標量を満たせたことは一度もなく、令和5年度の最

新調査においては野菜摂取量が年々減少している様子も見られています。

野菜摂取は排便

機能を整える他に「血糖値の上昇を抑制する」「摂りすぎたコレステロールや中性脂肪を体外に排出する」「多く含まれるカリウムが血圧上昇を抑える」「ビタミンやミネラルにより若返り効果が期待できる」など健康に役立つ要素がいっぱいです。

春は植物が元気に育つ季節！手頃な値段の旬の野菜を選んで、食卓に「野菜を一皿追加」してはいかがでしょうか。

種類	機能	多く含まれる食品
水溶性食物せんい	やわらかい便にする 腸の善玉菌を増やす	こんにゃく、海藻類、きのこ類、果物 など
不溶性食物せんい	排便量を増やす 腸の蠕動運動を促す	穀類、豆類、野菜類 など

ベジだけピザ

（材料）1枚分（20cm）

じゃがいも・・・2個（250g）
塩・・・少々
小麦粉・・・大さじ1
オリーブ油・・・大さじ2
ミニトマト・・・3個
ピーマン・・・1個
チーズ・・・適宜
※溶けるタイプ
ケチャップ、バジル（好みで）

（作り方）

① じゃがいもは、細い千切りにする。ザルに入れて、塩（ふたつまみ）をまぶす。（水分を出す為 10分程度）

② ①をボウルに移し、小麦粉を入れて混ぜる。フライパンにオリーブ油を熱し、①を焼く。（丸く薄く広げて弱火でじっくり片面を焼く）

③ 片面が焼けたら返し、焼けた面にミニトマト、ピーマン、チーズをトッピングする。フタをして、弱火でじっくり裏面を焼く。（じゃがいもに火が通るまで）



和田 広美

管理栄養士
柑橘ソムリエ
シーフードマイスター
愛媛大学地域再生マネージャー

お気楽 俳句

“俳句が好き！ 作った俳句の感想を聞いてみたい！
みんなの俳句について語り合いたい！” そんな子ども
たちのためのネット句会が「めぶき句会」。「いつき組
中高生会」の主催で続けられています。自分たちも俳
句の種まきをしようというその心意気、なんと頼もし
い子どもたちでしょう。

2023年8月【第1回めぶき句会】より

〈問一〉が一番難しい夜長

颯萬（高1）愛媛

水鉄砲真上を向いて撃ってみる

幸の実（中2）大阪

2024年1月【第2回めぶき句会】より

天津飯のあんのなめらか冬北斗

ホップたたがわすすこ（小4）大阪

冬の蝶カメラ写らず空に溶け

坐花飛鳥（小4）愛媛

旅ひとり温泉宿の蜜柑剥く

古瀬まめねこ（小6）長野

2024年3月【第3回めぶき句会】より

ビーカーの目盛りのかすれ春時雨

打楽器（高1）愛媛

ケンケンパ弾んだつま先に春

花心（小6）愛媛

指ずもうしようが言えんチューリップ

小物打楽器（小2）愛媛

2024年8月【第4回めぶき句会】より

けしゴムが小さくなった夏休み

陽華（小2）愛媛

プールの日くもをねむらすためのうた

大史華家（小2）埼玉

釣り針の返しに秋の風騒ぐ

結雅（高2）愛媛

ペンギンの歩く半歩や風薫る

喜隆（高2）愛媛

ヒロシマの蟻の背中がしやべらない

モツアレラ2号（中3）愛媛

2025年1月【第5回めぶき句会】より

書き初めて特選目指し半紙折る

しろくまはるみん（小3）鳥取

犬の目に映る餅搗激しくて

南未来（中1）愛媛

ざくろ石の赤不完全冬夕焼

侑樹（中2）愛媛

手袋を取る一瞬の憂鬱や

さな（中1）愛媛

縄跳やネジの緩みしジャンプ台

わか（高2）愛媛

※学年と都道府県名は投句当時のもの 色文字は季語
いつき組中高生会 @Chukoseikai

構成…小野更紗

1987年より宇和島市在住 息子の俳句甲子園出場を機
に俳句を始める いつき組 じゃこ天句会（毎月第2金曜日
7時より鶴島公民館）



*なるたけみぞーに！：なるべく短く！

絵…律川エレキ

1966年宇和島市生まれ 奈良市在住
2000年頃より俳句新聞や雑誌「100年俳句計画」等
に挿絵を描く。映像作家 俳号大塚桃ライス

おすすめの本

「僕には鳥の言葉がわかる」

鈴木俊貴：著

小学館（2025年1月刊）1,870円（税込）

著者は大学4年生の時に卒論研究のため、軽井沢の森に巣箱を置き「シジューガラ」の生態を調べ始めた。それから20年余りの実験調査の結果、「シジューガラ」が言葉を使うことを発見し、「動物言語学」という新しい学問分野まで立ち上げてしまった。
「好きだから」「かわいそうだから」という感情から始まり、根気強くテーマをひとつの成果にしていく過程が平易な文章で描かれている。子どもたちに読んでほしい1冊です。
学校図書館を担当されている先生!! ご注文をお待ちしています。

協力：岩崎書店 宇和島市錦町4-16 TEL.0895-22-0528





■アトリエ堀端絵画教室 (べにばら画廊) <https://benibara.webhop.info/>

宇和島市本町追手 2-8-6 TEL. 0895-22-1104 コメント: 吉田 淳治



作品名:『3つのモノ』(水彩)
作者:船田名津美(大人クラス)

船田さんが描いたキャンベルのスープ缶。60年前、アンディ・ウォーホルが、この缶をモチーフに大衆文化を融合させ、旧来の芸術価値観を刷新。ポップアートの旗手となり、世界を席巻した。そして今、さくらちゃんはいとも自然にポップの流れを感じ取り、軽々とアートする。とらわれない楽しさから次々と生み出す、美しい色やかたち。船田さんは、その缶をまたまた逆転させ、具象の力強さで再現した。モノを見る目を手に伝える確かさ。何でもあり、美術の世界はおもしろい。



作品名:『私のところ』(アクリル)
作者:中尾桜(こどもクラス)



作品名:『昭和から令和へつなぐ』(水彩)
作者:萩森奏(こどもクラス)

黒電話の重厚感とスマホのシンプル形体。丁寧によく見て描いているかなでちゃん。一枚の絵の中に時代の移り変わりを表す。受話器を手に取りダイヤルを回せば、時空を超えた声とつながるかもね!



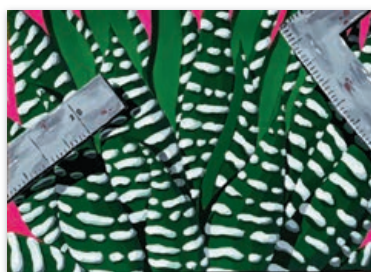
■アトリエぱれっと ガロ <https://art-palette.wixsite.com/mysite>

宇和島市泉町 2-2-10 TEL.090-7784-4703 yuka@art-palette.com コメント: 清家由佳



作品名:『一升瓶のある静物』(鉛筆)
作者:菊池心優(高3)

毎日遠方から通い続け、受験対策コースで日々技術習得と感性を磨いて、よく頑張りました。物を捉える力と発想力に優れている心優さん。大学生になっても、もち前の明るさで楽しいキャンパスライフと素敵な絵を描き続けてほしいです。



作品名:『多肉植物と曲尺』(アクリル)
作者:西森柊人(高3)

毎日、受験コースでデッサンと平面構成を制作している姿は、とても真剣でした。描くこと表現することがとても好きなんだということがよくわかります。これからも柊人くんの作品を楽しみにしています。大学へ進学しても頑張ってくださいね!



作品名:『睡眠薬』(鉛筆)
作者:伊藤 奏(高3)

なんでも本気で取り組む奏ちゃん、ぬいぐるみの柔らかさ、可愛さをよく表現できています。アーティーンとしても、宇和島信用金庫主催のカレンダー公募展のポスターチラシのデザインも彼女のデザインです。大学へ進学しても頑張ってくださいね!



株式会社ロビン 代表取締役 小島大資

「大人気のデイサービス！その人気の理由は・・・！？」

うわしん若手経営塾 OB

若だんな将
おかみ
18

弊社は、2013年11月に株式会社ロビンを設立し、高齢者福祉事業の通所介護施設「デイスパ駒鳥」を2014年4月に和霊町にて創立しました。その後、ご利用者の増加に伴い、事業拡大のため2017年5月に現在の寄松に移転統合しました。

弊社の経営理念は「誠心誠意」です。誠心誠意とは嘘偽りなく真心をもって事にあたること、真心とは真剣に尽せる心です。福祉では、この心をもって業務にあたるのがとても大切だと考えており、職員の採用・教育においても最も重要視しています。

通所介護施設（デイサービス）とは、介護の認定を受けた方の心身機能の維持・向上、社会的孤立感の解消や認知症予防等を目的として、日帰りで入浴、食事、レクリエーション、機能訓練といった介護サービスの提供を行う施設です。また、ご利用者を支えるご家族の介護負担軽減や自由時間（仕事や買い物等）の確保につながることも通所介護施設の大きな社会的役割の一つとなっています。

デイスパ駒鳥には、人気の理由が三つあります。一つは「気質の良い職員達」です。職員間の関係も非常によく、ご利用者ご家族のことを親身になって考え日々業務にあたっています。私自身も、将来はデイスパ駒鳥に通いたいと思うほどです。二つめは「リハビリ」

です。退院後や心身機能を維持向上するための訓練を実施しています。弊社には、医療知識豊富な理学療法士・作業療法士・看護師が現在十二名勤務しており、一般的な通所介護施設と比べ専門的なリハビリを実施することができます。全国的にみても通所介護施設でこれほどの看護、リハビリ職の配置はありません。三つめは、入浴です。弊社の浴槽は大浴槽ではなく「全個室浴槽」となっており、一人ひとり綺麗なお湯につかることができるため、大変喜ばれています。



デイスパ駒鳥の浴室

弊社と関わってくださる全ての皆様方のお力添えにより、現在の施設も手狭となり2号店の出店を計画しております。まだ計画段階ではありますが、スペースを広く確保して運動とリラクゼーションを兼ね備えた設備等を増設

する予定です。また、2号店ができることで、ご利用者の順番をお待ちいただいている方や新規のご利用者の受入がスムーズにできるようになります。今後、ご利用者ご家族のさらなる充実した日常生活の一助となり、地域社会の発展に寄与していきたいと考えています。



デイスパ駒鳥のフロア

デイスパ駒鳥は、ご利用者ご家族、外部の介護支援専門員（ケアマネジャー）様など弊社と関わってくださる皆様の口コミのみでこれまで規模を拡大してまいりました。利用をご希望される場合は、担当のケアマネジャー様に「デイスパ駒鳥に行きたい」とお伝えいただけますと嬉しく思います。



株式会社ロビン

〒798-0084 宇和島市寄松甲 368-1

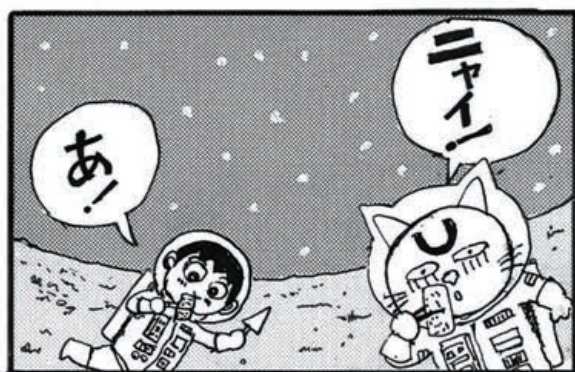
TEL：0895-49-3113 FAX：0895-49-3114



うわしん「南予活性化若手経営塾」とは、宇和島信用金庫において1年間、南予地域の産業活性化をはかるために創業者や2代目、3代目の若手経営者を育成し、企業経営体質の健全化・成長のためのセミナー・個別指導・異業種交流等をおこなっていて、地域内の中小企業の経営レベルを向上させる目的で開講されています。

きさいやくん14 オザワヒロ

小惑星じゃこ天



1996年に発見された小惑星202903は発見者中村彰正にじゃこてん命名されました。形がじゃこ天で削って食べれるというのは作者の希望です。(笑)



作者プロフィール

本名/城内 章 1957年 宇和島生まれ 愛知県在住
宇和島南高等学校卒 職業/建設業
趣味/漫画イラスト作成
著書に「のらとおばあちゃんの虹」

Tosyu Hyappen

斗酒百篇



あらごし桃酒

720ml 1,760 円 (税込) 1800ml 3,520 円 (税込)

梅乃宿酒造株式会社 奈良県葛城市寺口 27 番地 1

<https://www.umenoyado.com/>



日本酒とたっぷりの桃が溶け合った、やさしいリキュール。太陽を浴びて育った甘くみずみずしい国産の白桃だけを惜しげもなく使用した、果実感あふれるリキュールです。皮を剥いてピューレ状にすりつぶした白桃をさらに丁寧に裏ごしして日本酒とブレンドすることで、ピーチ果汁のようなとろりとした質感を実現しました。ロック、ソーダ割り、ミルク割りにしても美味しいです。他に、みかん、リンゴ、梅酒、ゆずなどのパリエーションがあって4月にはパインの出荷も始まります。

は し 土師 酒店

宇和島市広小路 2-58 ☎ 0895-24-7888

営業時間: 10:00 ~ 20:00 定休日: 日曜日

※斗酒百篇(としゅひゃっぺん)とは たくさんの酒を飲みながら、たくさんの詩を作ること。 古代中国の唐の時代、数多くの詩を作った李白のことを杜甫が『飲中八仙歌』の中で褒め称えた言葉。 題字/矢間大蔵

宇和島信用金庫 × 宮城第一信用金庫

業務提携10周年定期預金



募集総額
30億円

※キャンペーン期間中でも販売総額に達した場合、キャンペーンを終了させて頂く場合がございます。

2014年12月に宮城県の宮城第一信用金庫と業務提携締結して10年となりました

〈期 間〉 2025年4月1日～6月30日

金 利

0.40%

期 間
1年

対 象 個人・法人（個人事業主含む）

そ の 他 1 契約 10万円～500万円まで

「つなぐ」は、こちらでどうぞ。

● 宇和島市（本庁、津島支所、吉田支所、三間支所、中央図書館、吉田図書館、中央図書館津島分館、生涯学習センター、パフィオうわじま市立宇和島病院、伊達博物館、畦地梅太郎記念美術館、歴史資料館） ● きさいや広場 ● 道の駅みま ● シロシタ ● 宇和島商工会議所 ● 南楽園 ● かどや（駅前本店・弁天町店） ● ハイウェイレストラン宇和島 ● 和日輔 ● 福 DON ● 盛運汽船 ● 岩崎書店 ● 木屋旅館 ● はまゆう薬局 ● ひまわり薬局 ● JR宇和島駅 ● JR松山駅 ● 小野商店（津島） ● 安藤コーヒー ● べにばら画廊 ● アトリエぱれっと GARO ● 香川・愛媛 せとうち旬彩館（東京） ● 宇和島信用金庫各支店 他

「つなぐ」の発行は、新春号（1月）、春号（3月）、夏号（6月）、秋号（10月）です。 ※宇和島信用金庫は「宇和島クラブ」協賛業者です。



宇和島信用金庫

— この街が好き、この街と未来を拓く —